古今名馬圖會　上

(1)

古今名馬圖彙巻一

額田馬
装馬
騎射
走馬
貢馬
甲斐黒駒
神馬
日向駒
牧馬

栗原信充編

古今名馬圖彙巻一

額田馬ハ人王廿代允恭天皇乃御宇額田部湯坐連勅ニより薩摩の隼人を征伐しく得く海生朝廷ニ献せし名馬あり額ニ町形乃旋毛ありとぞ

甲斐黒駒ハ人王廿二代雄畧天皇乃御時ニ木工ゐなべまね乃甲斐乃黒駒くらきせハ命しぬまじ甲斐乃黒駒とよめるより世ニあらハれ聖徳太子ハ此馬ニめされ天下の名山ニ遊れしとぞ

装馬ハ推古天皇十六年小野妹子隋乃使裴世清と共に帰朝せしとき隋乃使をもてなさるゝ為乃西土装束乃馬を出されしと

神馬ハ
黒身にして
白髪尾
あるを
以て
と
え
天平三年
甲斐國
同しく
十年
信濃國
同十一年
對馬國
より
獻
せし
と
續日本紀
ろ
こ
四

騎射(うまゆみ)

軍防令(ぐんばうれう)に弓(きう)とハ歩射(かちゆみ)馬(ば)とハ騎射(うまゆみ)なりといへり五月五日に御覧あり

日向駒ハ推古天皇乃御製なり

まそがよ
そが乃こらハ
馬ならハ
日向乃駒
太刀ならハ
呉乃真剣(まさひ)
うべしかも
そが乃こらを
天皇(おほきみ)乃
めかさんらしき
とある
ふミく
良馬と
志れり

走馬（りそま）ハ五月五日武徳殿（ぶとくでん）ニて左右馬寮（さゆうめれう）左右近衛府（さゆうこんゑふ）左右衛門府（さゆうゑもんふ）乃馬藝（ばげい）を御覧（ごらん）をたまへる

牧馬ハ百疋を以て
群となし群ことに
牧子二人を置
と云

牧馬
四歳
にいたり
遊牝せしめ
五歳より
課をとらく

其駒
二歳に
なれハ
九月に至り

國司と
牧長と
共に
對して官字の焼印を
左髀骨の上に
印をとす

牧地ハ甲斐の柏前 真衣野
穂坂 武蔵の石川 田比 立野
小野 秩父 信濃の塩原 望月等
十六處 上野に有馬
等九處あり

貢馬

八月十五日

左右馬寮乃官人牽て南殿乃前をとをし朝餉にて御覧あり

紫宸殿

右馬寮乃貢馬ひく同し

左馬頭

古今名馬圖彙巻一終